

第2回改定委員会議事概要

主な意見		対応
1	◆ HP 上で公開されていたアンケート内容と資料あるアンケートの内容が異なっているがこれからの扱いはどうするか。	区の HP 場でのアンケートシステムの関係で設問数が決められており、体裁が異なっているが、内容としては同じです。ただし、組織票が入る可能性等があることから、HP のアンケート結果は郵送回収したアンケートの結果とは合算せず、別途集計して参考結果として用いる予定。
2	◆ 問 11 の「公園にあると良いと思う施設」として、「コンビニエンスストアなどの売店」が含まれているが、前回の議論では、これに対する市民のニーズが多かった場合に、区としてどのように対応するのかという議論があったが記載されている。	コンビニエンスストアの設置については、街区公園規模の公園では難しいかもしれないが、スポーツ施設のある公園などには、設置の余地があると考えており、アンケート結果を踏まえて、手法の1つとして検討する。
3	◆ 問 12 の「収益を得るために行うとよいもの」として、「企業広告等の看板設置」とあるが、現状でも注意喚起の看板などが乱立しており、さらに企業広告が設置されることは好ましくないと感じる。	アンケートの集計結果をふまえて、公園の維持管理費の補填のための手法の1つとして検討する。
4	◆ 課題 1～5 は他区にもあてはまる。「東京で一番住みたくなる板橋」に向けて、板橋らしさを出していくべきである。	課題 1 として「板橋の風土を形成するみどりの保全」を追加した。
5	◆ 価値を知る、共有するは次のステップであり、私たちが将来住んでいく板橋がどうあってほしいかを伝えなければいけない。最初に示すべきは、氾濫原と台地、崖線などの板橋らしさである。	計画のテーマ「“みどり”を次世代につなぐ」の主旨説明を「板橋らしい風土と自然環境を支える緑を大切に守り次世代に引き継ぎます」とした。
6	◆ 板橋区的环境資産としてのみどりの価値を書いてもらうと良い。	計画のテーマ「“みどり”を次世代につなぐ」の項の中で、環境資産としての緑の価値を記載予定。
7	◆ 多様な緑と言いながら、全て一律に“守り育てる”と言われていることに違和感がある。人の手が入って維持管理されている緑と自然の緑では性質が異なる。緑の性質の違いに合わせて課題に対応をすることが読み取れない。	施策体系を「保全系」「緑化推進系」「協働系」に再構成した。
8	◆ 将来像の検討をする前に、緑の価値を改定の方向性に沿って再評価するとどのような状況にあるか把握する必要がある。	状況を把握するための資料として、板橋区緑の機能別解析図を作成した。

主な意見		対応
9	◆ 住民の意識を高めることは重要だが、何のためにそれに取り組むかという本質を見失ってはいけない。今やるべきこととしての整理は良いが、上位概念が抜けている。板橋区は何が魅力で、何を守っていくのか、そのために何をすべきか整理が必要である。基本方針3より派生するというよりは、大きな構造の中の1つとして示したほうがよい。	計画のテーマⅠ（緑資産の保全）、テーマⅡ（緑資産の創出）を、区民側から支えるのがテーマⅢ（協働）、との構成としたいと考えている。
10	◆ 区内の緑の最大の地主は板橋区であり、それをどう守っていくか書かれていない。荒川、崖線、樹林地について、区として保全していくことを示して欲しい。	生物多様性の保全については、荒川と崖線などの拠点と周辺の緑をどうネットワーク化していくか検討する。
11	◆ 現行計画の3つの方針は“まもる・つくる・はぐくむ”であったが、今回の方針では、“まもる”、“つくる”の部分がなくなっているように感じる。	保全系、創出系のテーマを設定した。
12	◆ 基本方針が非常に簡単すぎる上に、そこにぶら下がる施策の軸が出ていないので、誤解を招いたり、不足感があつたりする。基本方針の表現を工夫する必要がある。	“つなぐ”をキーワードとして、時間軸（次世代につなぐ）、空間軸（街並みをつなぐ）、協働軸（人をつなぐ）によりテーマを再編した。
13	◆ 大きな緑が多く例で示されており、街路樹や団地の緑など小さなみどりへの言及が少ないが、そうしたみどりと人との関わりについても言及があるとよい。	緑の質の向上の一環として、街路樹も主要な対象と捉えている。小さな緑との関わりについては、協働の項の中で言及したいと考えている。
14	◆ 区では建物の老朽化対策建築物等も検討されているが、そこでは空き家や空き地での害獣・害虫などの喜ばしくない多様性の話題もある。良い面とともに、そうした質の落ちる面も考慮しておく必要がある。	板橋区老朽化対策建築物等対策計画における取り組みも含め、記載内容を検討する。
15	◆ みどりを将来に残すための担保方策は行政にしかできない。それがきちんと位置付けられおらず、みんなでやましようという表現が強く感じる。“価値を知る”“参加する”“守り育てる”の3ステップによるスパイラルアップが上手く伝わっていない。	計画のテーマⅠ（緑資産の保全）、テーマⅡ（緑資産の創出）を、区民側から支えるのがテーマⅢ（協働）、との構成としたいと考えている。
16	◆ 都市緑地法の改正が追い風だと思う。板橋で新しい枠組みをうまく取り入れて、変えていけることが示せるとよいが、区の覚悟が見えてこない。貴重な緑地や小さな緑地を区としてどう捉えてどうするか。区はこうするから市民も一緒に変わろうという姿勢がほしい。	計画期間の中での行政の取り組みを明確にした上で、区民が参加しやすい協働の仕組みづくり、活動メニューの充実について更に検討を進める。
17	◆ 基本方針の段階から、施策の軸を見せ、各主体の役割を明確化したほうがよい。	

主な意見		対応
18	◆ 基本方針の構成について、区民と緑の関わりが増えることで勝手に取組みが進み、板橋区の緑が暮らしの一部になるという動的なイメージを持って整理する必要がある。基本的に、3段階のステップがある。第1ステップは自分ごと化。第2ステップは主体化した同士が相互に協力することである。出会いの場を上手く編集していくことで、お互いが高め合う。第3ステップは皆で取組むことである。この3ステップをどのように作っていくかがこの基本計画の枠組みである。	「“みどり”と人をつなぐ」のテーマの中で、区民と緑との関わりを増やすためのメニューや、中間支援組織導入を視野に入れた仕組みづくりについて言及する予定。
19	◆ 基本方針の内容が重複している個所があるように思う。“参加する”と“価値を知る”は切り分けが難しく、明確化されていない。	「“みどり”と人をつなぐ」のテーマの中に統合する方向。
20	◆ “参加”という言葉が適切かどうか疑問である。参加というと用意した場に参加するという印象を受ける。協働でみどりのまちづくりを実現していくという姿勢がよい。	「“みどり”と人をつなぐ」を協働のテーマとして、サブキャッチを「はぐくむ・楽しむ・参加する」とした。
21	◆ 協働についても従来と同じではなく、企業等も環境保全や公園管理等の活動に参加してもらおう時代である。	企業との協働メニューの提案についても検討を進める。
22	◆ コミュニティが存在しないということのほうが多い。みどりがコミュニティをいかに育てるかが重要である。コミュニティが既にあるという幻想を持っているような表現がある。	表現方法について留意する。
23	◆ 参考事例は他地域の事例ばかりであるが、板橋の具体的な事例をあてはめるとどうなるか。成果や課題が明らかになり、今後の取組みの方向性が見えてくるのではないか。	配布した資料は、板橋にない新しい事例を紹介することを目的としている。板橋区の実践に関する資料は前回資料とあわせて引き続き整理する。
24	◆ この資料の施策例はレクリエーションの面が強い。日常に取り込む視点も重要である。庭、住宅地、商店街、公園と、自分の身近な暮らしから周辺に派生して広がっていくものである。日常的に緑にどう関わっていくかが整理されるとよい。	緑のまちづくりについて、日常的で身近な視点を重視した記述を心掛ける。
25	◆ みどりに興味がないという方にも、みどりに興味をもってもらえるような方向性が必要。	改定の視点として「緑に関心のある区民ふやし・・・」の方向性を示した。
26	◆ みどりと公園課以外の課にも、緑が大切という認識を広げていく必要がある。これまでの他部局との横断的な取組みに関する成果・課題を検証した上で、施策を検討していく。ランドデザインに先駆けて、緑の基本計画が野心的に、環境の将来図を示していけるとよい。	各施策項目に、関連する連携分野を表記し、施策展開において横断的な取り組みを進めていく。

主な意見		対応
27	<p>◆ 安心・安全の視点がない。防犯カメラが必要かもしれないし、すぐに連絡できる仕組みが必要かもしれない。予算的なことを考えれば、コンビニの設置も含めて考えていく必要がある。自然を大切にするのはよいが、草木が生い茂った危険な状況を放置している点は議論する必要がある。</p>	<p>防犯カメラの設置や避難の体制づくり等はパークマネジメントの中でも検討が進められており、そこでの検討結果を反映させる。</p>
28	<p>◆ 地形などの板橋らしさを将来どう残していくかを話したい。それが将来像につながる。次回の改定委員会は 8 月になっているが、どこで将来像について議論するのか。</p>	<p>「“みどり”を次世代につなぐ」を緑資産の保全・継承に係るテーマとして、施策体系の構成を行う予定。</p>